

二〇一四年度 一般一月入学試験

国 語

〔注意事項〕

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子の中を見てはいけません。
2. 問題冊子は28ページ、解答用紙はマーク・シート1枚です。監督者の指示に従って確認しなさい。
3. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
4. マークは、マーク・シートに記載してある「記入上の注意」をよく読んだうえで、正しくマークしなさい。
5. 受験番号及び氏名は、マーク・シートの所定欄に正確に記入し、また受験番号欄の番号を正しくマークしなさい。
6. 監督者の指示があつてから、マーク・シートの左上部にある「科目欄」に受験する科目名を記入しなさい。
7. 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 国語

(60分 100点) (解答番号

1

47)

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

私が最も詳細に観察したのはレフトの彼だった。ありのままに言えば、野球というスポーツについての理解は、すべてレフトの彼を通して得られたものだった。私の頭の中では、レフトだけに特別な地位が与えられていた。野球を知らない人にとってみれば、そこは守備陣形の中心から遠く外れた、ごく目立たない一隅に過ぎないかもしれないが、レフトほど崇高で侵しがたく、尊い場所はない、と私は信じていた。それが甲子園のレフトとなれば、まるで未登頂の聖なる頂のようなものだった。

教室にいる時、彼には一言も口をきいてももらえなかったのに、ユニフォーム姿の彼については無限の言葉で表現できることが、自分でも不思議だった。私は手元の単語カードに彼の美点を一つ一つ書き込んでいった。バッターボックスに向かう足取り、目をカクす<sup>(1)</sup>ひさしの陰、タイミングをはかる腰の動き、打球を見上げる横顔、ベースの上で土を払う仕草、グローブをはめる瞬間、風を読む瞳、打球を追う足音、しなる肩……。私は何枚も何枚もカードをめくっていった。最後の一枚が済んでもまだ書き足りなかった。そういう場合に備え、制服のポケットには常に、さらの単語カードが入っていた。

校庭には照明施設などなく、日が暮れはじめると瞬く間にユニフォームは木立の陰に紛れ、単語カードの文字は闇の底に沈んでいった。それでも私の耳は、レフトの彼がフライをキャッチする音も、スパイクが土を蹴り上げる音も、(2)聞き分けることができた。レフトの彼が練習をしている限り、私も粘り強く銀杏<sup>いちょう</sup>の切り株に座り続けた。

いよいよ甲子園へ出発する日が来た。マネージャーでもチアリーダーでもない私はその他大勢の応援要員として、チューリツプハットを一つもらい、夜行バスに乗った。バスの中では先生がアルプススタンドの座席表を振りかざしながら、校名のイニシャルAをいかに鮮明な人文字で表現するかについて、(3)説明していた。まず自分の座る番号が、黄色か白かこの座席表で確

認しなさい。チューリップハットの表が黄色、裏返せば白です。自分に与えられた色を守るのです。攻撃の間はうろろう動くんじゃない。特にAの字の先の尖<sup>とが</sup>ったあたりを担当する人、責任重大です。気持ちのよい、すがすがしい鋭角を作り出して下さい。その鋭角の内側の人、もっと大事です。この三角形さえきれいに保たれていれば、どこからでもAの字に見えます。この三角形に一度閉じ込められた人は、試合が終わるまでAの外に出るはなりません。よろしいですか？

私は自分の席を確かめた。<sup>(4)</sup>案の定、三角形の内側だった。

阪神高速道路を走っている間に少しづつ海の方から朝日が射<sup>ま</sup>しはじめた。うとうととしていた皆も起きだし、早速朝食代わりの菓子パンを齧<sup>かじ</sup>ったり、日焼け止めクリームを<sup>(5)</sup>塗<sup>ぬ</sup>ったりしていた。話し掛けてくる子は一人もいなかった。私はずっと黙ったまま窓の外を見つめていた。薄暗がりの隙間から真<sup>ま</sup>つ直<sup>す</sup>ぐ降り注いでくる光の帯を、一本一本目でなぞっていると、この朝日が間違いない私をレフトの彼の許<sup>もと</sup>へ運んでくれているのだと実感できた。海は波などないかのように静かに、ただじつとそこに横たわっていた。

不意に目の前に甲子園球場が現れ、私は面<sup>(6)</sup>くら<sup>い</sup>、思わず一歩後ずさりした。何かしら予告めいた気配がしたあと、厳かに姿を現すのだろうと勝手に思い込んでいたが、実際は呆<sup>(7)</sup>気<sup>あけ</sup>なかつた。高速道路に切り取られた空のすぐそばに、思<sup>(8)</sup>わせ振<sup>り</sup>も取<sup>り</sup>もなく、それはそびえていた。蔦<sup>つた</sup>の葉が風でなびくたび、朝日がきらめいて弾<sup>はじ</sup>けた。

まだ第一試合もはじまっていないというのに、既に球場の周りは熱気に包まれていた。夜行バスから、あるいは阪神電車から下りた人々が入口を目指して行進し、土産物屋のおばさんは声を張り上げ、警備員は笛を鳴らし、そこかしこに陣取った各校のプラスチックバンド部員たちは、好き勝手にトランペットやホルンやクラリネットの音合わせをしていた。それらのざわめきが共鳴し合い、大きな渦となり、人々の興奮をいつ<sup>(9)</sup>そうあおり立てた。

「クラス別に整列して。はぐれないように、一組から順番に。さあ、そこ、ぐずぐずしない」

先生は座席表を握り締め懸命に声を張り上げたが、浮かれた集団は人の波に押されるばかりで、なかなか予定通りに整列できなかった。私はこの混乱に乗じて徐々に列から後れてゆき、他の集団に紛れて彼らから遠ざかることに成功した。人文字のAに

閉じ込められるなど、考えるだけでもおぞましかった。<sup>(10)</sup> そんなところでチアリーダーの合図に合わせ、皆と一緒に応援歌など歌うために甲子園まで来たわけではなかった。<sup>(11)</sup> 私は甲子園で、自分一人の切り株を見つけ出す必要があった。私はチューリップハットを小さく折り畳み、制服のポケットに押し込めた。あらかじめ予想していたとおり、はぐれてゆく私に気を留める人は一人もいなかった。

私はレフトの方向を目指して左側へ左側へと進んでいった。球場の入口はいくつもあり、数字とアルファベットの組み合わせによって細かく区分されていたが、私は戸惑わなかった。左へ方向を定めてさえいれば間違いない。そこにレフトがあるのだ、<sup>(12)</sup> というユルぎない自信で胸を満たし、<sup>(13)</sup> どんなに人に押されてもうつむかず、正々堂々と歩いた。

ソースとシロップとビールの匂いがしみ込んだ薄暗い通路を抜け、階段を上り、ふと顔を上げた瞬間目に飛び込んできた風景を、私は今でも忘れていない。そこにあれほど広々とした空がカクれているようになどと、一体誰が思うだろうか。まだ何ものにも汚されていない、生まれたばかりの、手付かずの空だった。その下には芝生と、軟らかい土と、真つ白なベース。それらが寸分の狂いもないバランスで配分されている。芝生は誇らしげに太陽の光を浴び、土はスパイクの跡が刻まれるのを心静かに待っている。銀傘の影は濃く、横切る鳥たちの羽ばたきは素早く、引き終わったばかりのラインからは白い煙が立ち上っている。

故郷に銀杏の切り株を残し、夜を越え、朝を越え、自分は何と遠くまで旅をしてきたのであろうか。ここほど彼が野球をするのに相応しい場所はない。たった一個のボールのために捧げられた聖地だ。いよいよ彼は未踏の頂に第一歩を印すのだ……。人の波に押され、舌打ちされるのも構わず、私はその場に立ち尽くし、階段の手すりを握り締めて感嘆の声を上げた。

信じられないことに外野席は無料だった。お金をほんのわずかしか持つていない私はほっとし、これを幸運の前チョウと受け止めた。そしてレフトの守備位置の真後ろ、最前列の席に場所を定めた。そこが新しい切り株だった。<sup>(15)</sup>

既に太陽は夏の光を放ちはじめ、さえぎる雲は海の彼方へ去り、床のコンクリートは熱を持っていた。次から次へと人があふれ出し、見る間に席を埋めていった。とうとう暑さに我慢できなくなり、捨ててしまおうと思っていたチューリップハットをポケットから取り出して被った。Aの端くれがこんなところに紛れ込んでいます、と誰かに指を差されやしないか、しばらくびく

びくしていたが、やがて心配は無用だと悟った。一塁側アルプススタンドを見やると、まだ落ち着きのない観客席の中で、そこだけ見事に統制の取れたAの文字が浮かび上がっていた。私が座るはずだった先端の三角形が、一部欠けて不恰好ぶかつこうになっているはずだと目を16こらしてみたが、そこにあるのは、先生が目指す完全な三角形だった。

戦いを告げるサイレンが鳴り響いた。それはいつまでも長く、私の中でこだまし続けた。選手たちがいつせいにグラウンドへ向かい、全速力で駆けだした。

(小川洋子『夜明けの縁をさ迷う人々』による)

(注) 銀傘——阪神甲子園球場内野席についている雨よけ、日よけの覆い。銀傘におおわれていない内野席と外野席の間のエリアがアルプススタンドである

問 1 傍線番号(1)・(5)・(12)・(15)・(16)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

1

5

(1) カクす

1

- ① 脚インを踏む
- ② 婚インを結ぶ
- ③ イン頭炎にかかる
- ④ 定年後にイン居する
- ⑤ 敗インを分析する

(5) 又ったり

2

- ① ト炭の苦しみ
- ② 発展ト上の国々
- ③ ライバルに嫉トする
- ④ 発熱して嘔トする
- ⑤ 医学を修めにト米する

(12) ムるぎない

3

- ① 奇怪なヨウ相を呈する
- ② 善行を称ヨウする
- ③ 心が動ヨウする
- ④ ヨウ領の悪い人
- ⑤ 薬の効ヨウ

(15) 前チヨウ

4

- ① チヨウ辞を述べる
- ② 船ごとにチヨウ果を競う
- ③ 愚の骨チヨウだ
- ④ チヨウ幼の序を尊ぶ
- ⑤ 宇宙の億チヨウの星々

(16) コらして

5

- ① 法律に通ギヨウしている
- ② 水がギヨウ固する温度
- ③ ギヨウ臥の姿勢を取る
- ④ 彼は必死のギヨウ相だ
- ⑤ 先人の偉ギヨウに学ぶ

問2 空欄番号

(2)

(3)

しなさい。

6

に入る語句の組み合わせとして、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマーク

- ① (2) すつきり (3) はきはきと
- ② (2) はつきり (3) とつとつと
- ③ (2) きちんと (3) くどくどと
- ④ (2) もくもくと (3) せつせつと
- ⑤ (2) ちゃんと (3) きつぱりと

問3 傍線番号(4)「案の定、三角形の内側だった」とあるが、これを知った時の「私」の心情として、最も適切なものを、次の

①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

7

- ① 集団の一員として人文字の鋭角の一翼を担うか、あるいは自分の思い通りの応援をするか、二者の間で葛藤する気持ち
- ② 人文字のAの、よりによつて先端の三角形に閉じ込められることを知り、そこに先生の悪意を感じて不愉快に思う気持ち
- ③ 目立たないように応援したかったのに、人文字の先端部分に配置されたことに責任と重圧を感じずにはいられない気持ち
- ④ レフト付近で応援できないとは思っていたが、やはり目立つ一角を担うことになり、ついてないと自嘲的に諦める気持ち
- ⑤ 集団の応援から抜け出そうとしている自分のような人に限って、移動しにくい席になってしまうものだと落胆する気持ち

問4 傍線番号(6)・(7)・(8)・(9)・(10)・(14)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

8

13

(6) 面くらい

8

- ① 恐れおののいて
- ② ひどく落ち込んで
- ③ 衝撃に我を忘れて
- ④ 驚き戸惑って
- ⑤ 喜びに目がくらんで

(7) 呆気なかった

9

- ① 思った通りでほっとした
- ② 期待外れで物足りなかった
- ③ あきれるほどひどかった
- ④ すがすがしく心地良かった
- ⑤ 想像を絶するすばらしさだった

(8) 思わせ振り

10

- ① 相手に何かを求めようとする態度
- ② 思いを密かに伝えようとする態度
- ③ 人に期待を抱かせるようなそぶり
- ④ 相手を悩ませるようなそぶり
- ⑤ 実際以上に大げさに振るまうそぶり

(9) あおり立てた

11

- ① 刺激し混乱させた
- ② はつきりと示した
- ③ 長続きさせた
- ④ 勢いづけ激しくさせた
- ⑤ ひどくゆり動かした

(10) おぞましかった

12

- ① ぞつとするようでいやな感じがした
- ② わずかながら不快感を感じた
- ③ 言い知れない恐ろしさを感じた
- ④ 圧倒されて放心状態になった
- ⑤ 不快さに怒りが湧き上がった

(14) 寸分の狂いもない

13

- ① 大きな狂いは見当たらない
- ② いささかの狂いも許されない
- ③ ほんのわずかしか狂いはない
- ④ 計ったように正確極まりない
- ⑤ 計器では計ることができない

問5 傍線番号⑪「私は甲子園で、自分一人の切り株を見つけ出す必要があった」とあるが、その時の「私」の心情として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

14

- ① 普段は誰にも気づかれない校庭の銀杏の切り株のように、甲子園でも同じように人知れずレフトの彼を見守ることのできる場所を見つけたい
- ② 校庭の銀杏の切り株でいつも彼を見守っていたように、レフトの彼にごく近い場所で彼の甲子園での一挙手一投足を見つめていたい
- ③ 甲子園のアルプススタンドの応援席で大勢の中の一人として応援するのではなく、彼を応援する特別な一個人としていられる場所を求めたい
- ④ アルプススタンドの集団の一員に埋もれるのではなく、自身の意思でレフトの彼を応援する覚悟を改めてここでしなければならぬ
- ⑤ レフトの彼からも見える位置に、校庭の銀杏の切り株のような座り心地のよい場所を見つけ、甲子園でも存分に彼と心の中で交流したい

問6 傍線番号⑬「どんなに人に押されてもうつむかず、正々堂々と歩いた」とあるが、このように行動した理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

15

- ① 集団の中ではいつも孤立していたので、集団の枠を超えることでむしろ寂しさを払拭できたから
- ② 仲間を裏切つて集団を抜け出し、個人行動することに対する後悔の念をふつきろうとしたから
- ③ 集団から離れることに後ろめたさはなく、自分の目指す目的地に向かうことに迷いがなかったから
- ④ 独りになるためには、周囲の人の気持ちを傷つけても平気でいられる覚悟が必要だったから
- ⑤ うつむいてばかりいては、かえって不審がられ、学校関係者に見つかって連れ戻されそうだから

問7 本文中からうかがえる「私」の人物像の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

16

- ① 集団の一員と見なされることを嫌悪し、わざと目立つように振る舞い、他人を翻弄する人物
- ② 集団の中での孤独に耐えられず、時には衝動に突き動かされて無分別な行動をしてしまう人物
- ③ 集団に自分を無理に合わせることはせず、自身の一途な思いに忠実に行動しようとする人物
- ④ 集団の中では目立たず理もれがちだが、他人を驚かせるために羽目を外してしまう人物
- ⑤ 集団からの疎外感を常に感じていたため、それに反発して無軌道な行動を取りがちな人物

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(40点)

(1) グローバル化した市場原理が席卷する現代において、実用に役に立つ科学ばかりが強調されるようになってきている。それに応ずるかのように、科学者も役に立つことを言い訳がましく口にし、研究費をねだるようになった。例えば、量子力学は最初は純粋な科学研究であったが、現代においてはコンピュータやレーザーなど大いに世の中の役に立っている、と言う。

(2)

今は役に立たないように見えても、そのうちに役に立つようになるのかもしれないのだから科学に投資すべきである、というわけだ。そうであるかもしれないが、そうでないかもしれない(そうでない可能性の方が大きい)。「そのうち役に立つ」という言い方は、バブル会社のように、空手形を発行して資金を調達しようとしているのと同然なのではないか。市民の側も、「何の役に立つか」にひどくこだわるようになっていく。実生活や生産に役に立たねば無意味だと言わなければなりである。ここにおいては敢えて、科学者は生活や生産に役に立つと言うのはタブーにし、文化として人々の役に立っていると正々堂々と言えることが肝要であり、市民は不用の用に価値を見出す鷹揚さを身につける必要があることを強調したい。

地下資源の少ない日本においては、人材という資源しかなく、それを活かすのは科学技術である、という論がよく聞かれる。二〇〇九年の事業仕分けにおいて科学技術予算が切られようとしたとき、ノーベル賞受賞者たちが記者会見して訴えたのもこの論理であった。これにハク手を送った人間もいたが、傲慢であるという意見もあつたのは事実である。科学技術を推進させるのが重要であるのは確かではあるが、それは数ある施策と比較して選ぶべき諸課題の一つであつて、優先事項である必要はない。科学が日本を背負う状況は異様であり、文化としての科学の大事さを評価する市民の選択に任せるべきなのだ。

しかし、現代においては科学の内実が変質し、技術と強く結びついていることは否定できない。私はそれを「科学の技術化」と呼んでいるが、それにはいくつかの理由がある。

一つは、科学の最前線がどんどん特殊化・専門化し、自然全体を大きく切り取るような基本理論に欠けているためである。物理学で言えば相対論や量子論、地球物理学で言えばプレートテクトニクス、生物学で言えばDNAの二重らせん構造、これらは

大きなパラダイム変換を起こし、科学の中身を大きく変更させた。しかし、いずれも五〇年以上前に起こった科学革命であり、それ以後はその内容を豊かにする通常科学の域を脱していない。原理的な世界の発見が滞ると、技術的な側面に力点をおかざるを得ないのである。実際、一般相対論はカーナビに应用され、量子論はエレクトロニクス革命を担い、プレートテクトニクスは地震や火山研究の基礎となり、DNAの構造はゲノム解読を経て創薬や病気の治療に活かす、というふうに人間の生活と密着した課題にシフトしている。科学と技術がよりいっそう強く結びつくようになったのだ。

(7)

クローズアップしてみよう。例えば、物質を極低温に冷やすと、電気抵抗がゼロになる超伝導という現象が現れる。

一〇〇年前の一九一一年に発見された興味深い現象だが、最初はある種の金属のみに限られていた。しかし、時代とともに銅酸化物、セラミックス、有機物へと超伝導を示す物質が新たに発見されるようになった。それは超伝導という現象の豊かさの象徴なのだが、同時に実用の技術と結びつく要素も多くなっている。現在でも超伝導のリニアモーターが造られており、究極的には電気のロスがない電線の開発ということになるだろう。最近になって鉄化合物が超伝導を示すことが発見され、その応用範囲は大きく拡大しようとしている。科学において壮大な新理論が見つからなければ、技術的課題を解決する方向に向かうのは当然と言えよう。科学者の研究目標の設定において、通常科学に終始する時代においては、応用を意図した発想を持たざるを得ないのである。

他方、ナノテクノロジーやマイクロマシンのような、微視的世界の制御を通じて科学の前線を広げる動きも活発である。これらは基礎科学の研究でありながら、直ちに技術と結びつくような分野である。およそ一マイクロン（一〇〇万分の一メートル）より大きい世界は古典（ニュートン）力学で記述でき、一ナノメートル（一〇億分の一メートル）以下では量子力学を適用しなければならぬ。その中間の一マイクロンから一ナノメートルでは、古典力学と量子力学が混在して単純な取り扱いが困難である。そこどのような力学法則が成立しているかは科学の重要な課題であると同時に、生物の細胞形成、微小機械（マイクロマシン）の開発、微細構造物（ナノテクノロジー）、医薬品の作製など、新規技術への大きな可能性を<sup>8)</sup>ヒめている。いわば科学と技術が重なり合っている領域で、科学者は技術者でもあらねばならないのだ。

このように科学の技術化は、科学の発展形態として必然の方向と言えるのかもしれない。従って、科学者も実用の役に立つという意識が強くなり、それに迎合する姿勢も強まっているのは確かである。それが「産学連携」という、いわば「知の私物化」が進む背景となっていると思われる。これについては、すぐにアカデミック・キャピタリズム（学問セクターの資本主義）として考えてみたい。

科学の技術化において問題とすべきことは、「技術的合理性とは何だろうか」という設問である。科学の原理や法則は一つであつても、それを人工物として製品化する方式は無数に存在する。その場合、どのような方式が採用されるのだろうか。科学者としては自分が発見した方式を最大限に優先したいが、もつと良い方式があるのならそれにユズ<sup>(11)</sup>つてもかまわないと思う。もつと良い方式とは、省資源である、省エネルギーである、効率性に優れている、副作用のようなマイナスの要素が少ない、廃棄物に問題がない、というような公共的な配慮からのものだろう。ところが企業には、コスト・パフォーマンスが有利である、手っ取り早く製品化できる、安価にできるなど、科学者の意図とは別の論理が働く。本来は、その技術が環境倫理や安全性などの観点からの「技術的合理性」で判断しなければならぬのだが、むしろ「(12) 合理性」が優先されるようになる。それとともに、「技術的合理性」が問われなくなってしまうのだ。

そのような状況の中で、科学の技術化によって、科学者は企業の論理に従うことが習性<sup>(13)</sup>になっていくことに危惧<sup>(14)</sup>を覚えている。その典型は医学者の製薬メーカーとの癒着である。薬害が生じて、その薬を開発した医学者が正面に立つて責任を論じた例を私は知らない。科学者は、それが巧く<sup>うま</sup>いっている間は傲慢に自らの業績を誇り、失敗した場合は沈黙するか自己弁護して収束させようとする。血友病患者への非加熱錠剤の投薬でエイズに罹患<sup>ひん</sup>する人々が続出したが、それに対して患者さんに謝つたことがない。別の例では、サンフランシスコ地震のときに高速道路が破壊されたとき、ある工学者は「日本ではこういうことは起らない」と豪語した<sup>(14)</sup>。しかし、阪神淡路大震災で高速道路が落下したときには何も言わなかった（あるいは、高速道路の設計は完璧であつたが土壌が悪かつたと責任転嫁しただけであつた）。

科学的観点においてはいかなる天災に対しても万全のものを構想できるが、技術を通じて人工物とするにおいては工期や予算

や実用的便宜のために、ある限界強度を設定していることをこの工学者は意識していなかったのだ。技術は現実との「妥協」の上で成立しており、科学者はそれをはつきり認識して、「ここまでしか安全はホ証<sup>15</sup>されていない」と社会に伝えるという社会的責務があることを忘れてはならない。

原発においても地震や津波に対する設計にも限度が設けられており、それをある原子力工学者は「割り切り<sup>16</sup>」と表現した。割り切らねば原発の設計などできないというわけだ。しかし、その内容を詳しく説明しないまま安全ばかりをホ証し、福島原発の事故を招いてしまった。「この限度を超える地震や津波があれば、事故を起こして大変なことになるが良いですか」と市民に問わねばならなかったのだ。ところが、「想定外<sup>17</sup>」のことが起きたとして責任を回避するばかりであった。科学者は科学と技術の相違をはつきり見極め、技術的合理性がどこまでカン<sup>17</sup>徹しているか、どこから破綻するかを常に言い続けていなければならぬ。

科学が技術により接近している現在だからこそ、科学者は技術の危うさを知った上で、技術化への道を歩むべきことを常に  
(18) する必要があるのだ。

(池内了『科学と人間の不協和音』による)

問1 傍線番号(1)・(10)・(13)・(14)・(16)の本文における意味として最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ  
 選びマークしなさい。

17

21

(1) グローバル化した

17

- ① 一つの考え方に収束した
- ② 国を越えて世界規模になった
- ③ 包括的な視点を持った
- ④ 一つの思想だけが通用した
- ⑤ 世界中に知れわたり一般化された

(10) 迎合する

18

- ① 他の影響に甘んじ感化される
- ② 自発的思考や行為を一切中止する
- ③ 他に調子を合わせて従う
- ④ 他の意見に条件付きで合わせる
- ⑤ 他に取り入ろうとこびる

(13) 習い性になっている

19

- ① 長い間の習慣が染み付いてその人の当たり前の行動になる
- ② 人の生まれつきの性質が長年の習慣で大きく変容する
- ③ 長年の矯正により人の生来の性質が失われていく
- ④ 人の性質には先天的な要素よりも教育による影響が大きい
- ⑤ 職業的な習慣から逃れられなくなってしまう

(14) 豪語した

20

- ① 人を威圧する発言をした
- ② 事実と反する大きな嘘をついた
- ③ 自分の立場を有利にする発言を繰り返した
- ④ 他を蔑みながら偉そうなことを言った
- ⑤ 自信たっぷりに断言した

(16) 割り切り

21

- ① 他からの意見や批判を完全に無視すること
- ② ある原則に立ってきつぱりと結論を出すこと
- ③ 日程の都合を優先して大胆に取捨選択をすること
- ④ 不安定な要素を主観的なものとして一切排除すること
- ⑤ 責任を逃れるために自分を部外者の立場に置くこと

問2 空欄番号

(2)

(7)

に入る語として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び

マークしなさい。

22

23

22 (2)

① しかし  
② とはいえ  
③ なぜなら  
④ だから  
⑤ あるいは

23 (7)

① さらに  
② いわば  
③ そこで  
④ 従って  
⑤ つまり

問3

傍線番号(3)「『そのうち役に立つ』という言い方は、バブル会社のように、空手形を発行して資金を調達しようとしている

のと同然なのではないか」とあるが、筆者はここで、何を言おうとしているのか。その説明として、最も適切なものを、次

の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

24

- ① 資金を調達する以上「そのうち…」では一般の人は納得出来ないので、期日を明確にすべきだということ
- ② バブルの破綻で役に立たなくなった手形同様、結局は投資が虚しいものになることが確実だということ
- ③ 「そのうち…」という言い方には、バブル会社の空手形と同じぐらいの欺瞞ぎまんが感じられるということ
- ④ 「そのうち…」がバブル会社の手形なみに信用できない以上、現在有用なものに投資すべきだということ
- ⑤ 科学が役に立たない可能性はあるが、「そのうち…」という言い方は誤解を生むので改めるべきだということ

問4 傍線番号(4)「市民は不用の用に価値を見出す鷹揚さを身につける必要がある」とあるが、その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

25

- ① 将来性のある科学への先行投資とその推進は、日本の将来を豊かにすることにつながるから
- ② 一見実用的でないと思える科学であっても、それ自体を文化として認めることが重要だから
- ③ 目先の利益にばかりこだわっていると、次第に人間らしい心のゆとりが失われてしまうから
- ④ 科学の真の発展こそが人間社会の幸福の基盤であり、実用的かどうかは大きな問題ではないから
- ⑤ 科学を実用性の有無で格付けすることが科学者の意思疎通を妨げ、科学全体の発展を阻害するから

問5 傍線番号(5)・(8)・(11)・(15)・(17)と同じ漢字を使う語を、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

26  
 )  
 30

(17) カン徹

30

⑤ ④ ③ ② ①

⑤ 未カンの大作  
 ④ カン言に乗せられる  
 ③ 突カン工事  
 ② 弱カン二十歳  
 ① 注意をカン起する

(11) ユズつて

28

⑤ ④ ③ ② ①

⑤ 酒をジヨウ造する  
 ④ 手ジヨウを携帯する  
 ③ 大願がジヨウ就する  
 ② 謙ジヨウの美德  
 ① 過ジヨウな反応

(5) ハク手

26

⑤ ④ ③ ② ①

⑤ 罪を告ハクする  
 ④ 財政が窮ハクする  
 ③ ハク車をかける  
 ② 二ハク三日の旅  
 ① 画ハクの描いた絵

(15) ホ証

29

⑤ ④ ③ ② ①

⑤ 稲ホが風にそよぐ  
 ④ ホ調を整える  
 ③ 泥棒をホ縛する  
 ② 欠員をホ充する  
 ① 目のホ養になる

(8) ヒめて

27

⑤ ④ ③ ② ①

⑤ ヒ策を練る  
 ④ 将来をヒ観する  
 ③ 心身がヒ労する  
 ② 海外に雄ヒする  
 ① 条約をヒ准する

問6 傍線番号(6)「自然全体を大きく切り取るような基本理論に欠けている」の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

31

- ① 科学そのものの中身を大きく見直さざるを得ないような革命的原理が、長らく発見されていないということ
- ② 科学の最前線が徹視的世界の制御ばかりを志向し、原理を否定し技術の向上にのみ終始しているということ
- ③ 革命的科学は、さまざまな基本原理を応用して人類の福利を追求した成果として現れ出るものだという事
- ④ 現時点では、科学と技術とを結びつけるにあたって必要不可欠な倫理観の成熟が不十分であるということ
- ⑤ さまざまに多様化した科学の分野を総括できるような革命的理論が、未だに形をなしていないということ

問7 傍線番号(9)「科学の技術化は、科学の発展形態として必然の方向と言えるのかもしれない」とあるが、その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

32

- ① グローバルな市場原理は科学の世界にも及び、科学者自身の関心が実用性の乏しい研究には向かわないから
- ② 科学者自身が科学の技術的実用性を追求することで、企業による研究のバックアップが得られるから
- ③ 科学者の関心事が、新理論の発見よりも通常科学の内容を技術的に豊かにすることになっているから
- ④ 原理的な世界の発見が停滞し、科学の技術的側面に力点をおかざるを得ないのが現状だから
- ⑤ 科学と技術の結びつきが人間の生活をより豊かにするという考えが主流となつていいるから

問8 空欄番号

(12)

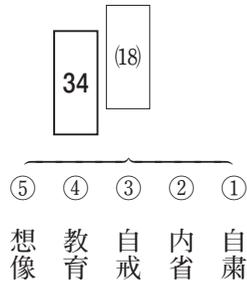
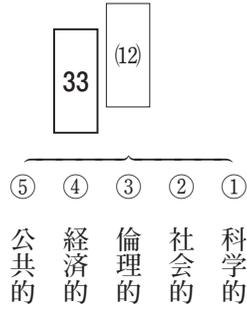
(18)

に入る語句として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び

マークしなさい。

33

34



問9

本文における筆者の考えと合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

35

- ① 資源の乏しい日本にとっては、科学者という人材を育て科学技術を推進させることが重要である
- ② 日本において科学は人間の実生活や生産に役立つばかりではなく、他国に誇り得る文化の一つでもある
- ③ 科学の最前線は特殊化しているので、専門家である科学者がその有用性や危険性を説明する義務を負っている
- ④ 科学の技術化によって、科学者が企業の論理に左右されがちになることには危惧を覚えざるを得ない
- ⑤ 科学者はその技術的合理性を見極めないうちに、自身の科学的研究成果を企業に委ねてはならない

第三問 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(20点)

されど、女の歌には心すべし。古今歌集の中に、よみ人知らずてふ歌こそ万葉に続きたる奈良人より今の京の始めまでのあり。これをかの延喜のころの歌とよくとなへ比べ見るに、<sup>(1)</sup>彼はこと広く心みやびかに豊けくして万葉に次げるものの、しかもなだらかに<sup>(2)</sup>ほひやかなれば、まことに女の歌とすべし。いにしへは、ますらははたけく雄々しきをむねとすれば、歌もしかり。さるを、古今歌集のころとなりては男も女ぶりに詠みしかば、をとこ・をみなわかちなくなりぬ。さらば、女はただ古今歌集にて足りなむといふべけれど、<sup>(3)</sup>それは今少し下ち行きたる世にて、人の心に巧み多く、言にまことは失せて歌をわざとしたれば、おのづから宜し<sup>(4)</sup>からず、心<sup>(5)</sup>にむつかしきことあり。いにしへ人の直くして心高くみやびたるを万葉に得て、後に古今歌集へ下りてまねぶべし。<sup>(6)</sup>このことわりを忘れて、代々の人古今歌集を事のもととしてまねぶからに、一人として古今歌集に似たる歌よみ得し人も聞こえず。はたその古今歌集の心をも深くさとれる人なし。物は末より上を見れば、<sup>(7)</sup>雲霞隔たりて明らかならず。その上へのぼらむ梯をだに得ば、いち早く高くのぼりて上を明らめて後に末を見よ。既に言ひし如く、高山より世間を見渡さむ如く一目に見ゆべし。もののこころも、<sup>(8)</sup>下なる人上なる人の心は測り難く、上なる人下の人の心は測り易きが如し。よりてまなびは上より下すをよしとする事、<sup>(9)</sup>から<sup>(10)</sup>国人もしかいへりき。

(『歌意考』による)

(注1) 延喜——平安時代前期、醍醐天皇治世の年号

(注2) から国人——中国の人

問1 傍線番号(1)「彼」とあるが、「彼」の指す内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

36

- ① 女の歌      ② 古今歌集の歌      ③ よみ人知らずの歌      ④ 奈良人の歌      ⑤ 延喜のころの歌

問2 傍線番号(2)・(5)の本文における意味として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマーク

しなさい。

37

・

38

(2) にほひやかなれば

37

- ① 香りがたちこめるようなので  
② 鮮やかでなまめかしいので  
③ 美しい色に染まるようなので  
④ 恩恵を受けているので  
⑤ 余情が感じられるので

(5) むつかしきこと

38

- ① わずらわしいこと  
② 解釈できないこと  
③ 苦しくつらいこと  
④ やましいこと  
⑤ 気味が悪いこと

問3 傍線番号(3)・(9)の口語訳として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

39

40

(3) ただ古今歌集にて足りなむ

39

- ① 古今歌集を学ぶだけでは足りるはずはない
- ② 古今歌集だけを学ぶことできつと十分だろう
- ③ 古今歌集だけは十分に学んでおいてほしい
- ④ 古今歌集を学ぶにはちようどふさわしい
- ⑤ ひたすら古今歌集を学んでも足りないだろう

(9) 上へのぼらむ梯をだに得ば

40

- ① 上へのぼる梯子さえ手に入れれば
- ② 上へのぼる梯子ぐらい手に入ったなら
- ③ 上へのぼる梯子だけは手に入れたので
- ④ 上へのぼる梯子までも手に入ったので
- ⑤ 上へのぼる梯子などは手に入れても

問4 傍線番号(4)「おのづから宜しからず」とあるが、その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

41

- ① 『古今歌集』は、人の誠実な心を詠んだ歌より、人の理知的な心の働きをわざと強調した歌を評価しているから
- ② 『古今歌集』は、「よみ人知らず」の歌より、歌を詠むことを職業としている歌人の歌を重視しているから
- ③ 『古今歌集』は、手際よく歌をつくろうとしたために、人の誠実な心が歌に表れていないから
- ④ 『古今歌集』が成立した時代は政治も文化も衰え始めている時代で、人の誠実な心を詠んだ歌がないから
- ⑤ 『古今歌集』は、人の誠実な心を詠みこむことより、技巧に優れている歌を詠むことに重点をおいているから

問5 傍線番号(6)「このことわりを忘れて」とあるが、「このことわり」の説明として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

42

- ① 『万葉集』にある歌のように、男性の歌の詠み方と女性の歌の詠み方には本来違いがあるべきだということ
- ② 歌を詠むときは、『古今歌集』にある歌のように技巧をこらさなければならぬということ
- ③ 歌は技巧をこらすよりも、『万葉集』の歌のように心の赴くままに詠むのが大切だということ
- ④ 『万葉集』にある素直な心情を詠む歌を学んだうえで、『古今歌集』の歌の技巧を学ぶのがよいということ
- ⑤ 女性の詠む歌は、勇猛で力強い『万葉集』の歌よりも優雅で繊細な『古今歌集』の歌に学ぶべきだということ

問6 傍線番号(7)・(8)の文法的説明として、最も適切なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選びマークしなさい。

43

44

(7) 歌よみ得し人

43

- ① 名詞＋ア行下二段活用動詞の未然形＋過去の助動詞の連体形＋名詞
- ② 名詞＋ア行下二段活用動詞の連用形＋副助詞＋名詞
- ③ 名詞＋ア行下二段活用動詞の連用形＋サ行変格活用動詞の連体形＋名詞
- ④ 名詞＋マ行四段活用動詞の連用形＋ア行下二段活用動詞の連用形＋副助詞＋名詞
- ⑤ 名詞＋マ行四段活用動詞の連用形＋ア行下二段活用動詞の連用形＋過去の助動詞の連体形＋名詞

(8) 深くさとれる人

44

- ① カ行四段活用動詞の連用形＋ラ行四段活用動詞の連体形＋名詞
- ② カ行四段活用動詞の連用形＋ラ行下二段活用動詞の未然形＋自発の助動詞の連体形＋名詞
- ③ 形容詞の連用形＋ラ行四段活用動詞の連体形＋名詞
- ④ 形容詞の連用形＋ラ行下二段活用動詞の未然形＋可能の助動詞の連体形＋名詞
- ⑤ 形容詞の連用形＋ラ行四段活用動詞の已然形＋完了の助動詞の連体形＋名詞

問7 傍線番号⑩「から国人もしかいへりき」とあるが、この表現から読み取れる筆者の主張の内容として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

45

- ① 学ぶことであるべく早く高い境地に至ることができれば、人は物事をすべて理解できるものだ
- ② 人の上に立つ人は、下にいる人々の心情や思いをくみ取り道理を学ばせるようにしなければならない
- ③ ものを学ぶときは、古い時代から今へと下るようにして学ぶのがよいと思われる
- ④ 古い時代のことを学ぶためには、今の自分の身の回りのことから考えていくことが大切である
- ⑤ 下々の者は上に立つ人の考えを理解できないから、為政者の考えに学ぶ必要がある

問8 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

46

- ① 男性の詠む歌は力強く、女性の詠む歌は優雅だという違いはいつの時代にも歴然とある
- ② 『古今歌集』にあるよみ人知らずの歌には、女性の詠む歌の手本となるものがある
- ③ 『万葉集』の歌には、心情や技巧などすべての点で学ぶべき和歌の最も大切な根源が示されている
- ④ 技巧的な歌の多い『古今歌集』よりも高雅な歌の多い『万葉集』のほうがはるかに優れている
- ⑤ 女性が上手な和歌を詠むためには、まず技巧をこらすことを中心に学ぶのがよい

問9 本文の出典である『歌意考』は、賀茂真淵の歌論であるが、同じ時代に成立した作品として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選びマークしなさい。

47

- ① 無名抄      ② 太平記      ③ 風姿花伝      ④ 無名草子      ⑤ 雨月物語